

- クー岩手県の希少な野生生物ー. 613 pp.
 笠原須磨生, 1985. 秋田県のゴミムシ類. 秋田自然史研究会, 39 pp, 3 pls, 1 map.
 栗原 隆・山迫淳介, 2007. 四国におけるウメヤルリミズギワゴミムシの記録. 甲虫ニュース, (160): 13.
 森田誠司, 2001. ウメヤルリミズギワゴミムシについて. 東海昆虫誌, 穂積俊文博士記念論文集 293-296 pp.
 田尾美野留, 2006. 高桑正敏・勝山輝男・木場英久 (編), 神奈川県レッドデータブック生物調査報告書 2006, ゴミムシ類. 369-383 pp, 神奈川県立生命の星・地球博物館.
 吉武 啓・栗原 隆・吉松慎一・中谷至伸・安田耕司, 2011. 農業環境技術研究所蔵の土生廻申コレクション (昆虫綱: コウチュウ目: オサムシ科) 標本目録. 農業環境技術研究所報告, (28): 1-327.

(〒 350-0825 川越市月吉町 32-17 亀澤 洋)

【短報】東京都多摩川水系におけるオナガミズスマシ類の記録

オナガミズスマシ類は流水性のミズスマシで、河川環境の悪化にともない、全国的にも生息域が狭められている。

その代表的な種がツマキレオナガミズスマシで、環境省 (2007) のレッドリストに準絶滅危惧種として掲載されているほか、6 県 (栃木, 神奈川, 広島, 福岡, 熊本, 宮崎) のレッドデータブックに記載されている。オナガミズスマシとコオナガミズスマシの 2 種は、環境省のレッドリストには記載はないが、前者は 5 県 (宮城, 山形, 埼玉, 岡山, 熊本) の、後者は 1 府 11 県 (山形, 埼玉, 千葉, 神奈川, 富山, 愛知, 福井, 京都, 愛媛, 福岡, 熊本, 鹿児島) のレッドデータブックに掲載されている (NPO 法人 野生生物調査協会・NPO 法人 EnVision 環境保全事務所, 2007)。

東京都においては、ツマキレオナガミズスマシ, オナガミズスマシ, コオナガミズスマシおよび後述するテラニシオナガミズスマシの記録がある (Takizawa, 1931; 神谷, 1933)。記録地名として“Tamagawa”または「東京 (郊外) 玉川」があげ

られているが、現在の多摩川のどのあたりかは不明である。また、コオナガミズスマシに関しては、シャープの原記載 (Sharp, 1884) によって“Tokio (東京都)”からすでに記録されている。ただし、いずれの記録も古く、東京都における現況を知る材料としては、守屋 (1997) による多摩川水系の秋川上流部におけるオナガミズスマシの記録しかなかった。

筆者らは、東京都における水生昆虫類を調査する過程で、以下のようにオナガミズスマシ類の生息を確認しているので報告する。

1. ツマキレオナガミズスマシ *Orectochilus agilis* Sharp, 1884 (図 1)

1♂, あきる野市二宮睦橋付近, 29. V. 2010, 雛倉採集・保管; 5♂♂, 5♀♀, 同地, 2. X. 2010. 松原, 雛倉, 亀澤採集・保管。

2. コオナガミズスマシ *Orectochilus punctipennis* Sharp, 1884 (図 2)

1♀, あきる野市二宮睦橋付近, 8. IX. 2007, 松原採集・保管; 2♂♂, 同地, 29. V. 2010, 雛倉採集・保管; 1♂, 1♀, 同地, 2. X. 2010, 亀澤採集・保管。

3. オナガミズスマシ *Orectochilus regimbarti* Sharp, 1884 (図 3)

3♂♂, あきる野市二宮睦橋付近, 8. IX. 2007, 松原採集・保管; 3♂♂, 同地, 29. V. 2010, 雛倉採集・保管; 5♂♂, 4♀♀, あきる野市上養沢, 4. X. 2009, 松原採集・保管; 1♂, 1♀, 檜原村人里, 21. IX. 2008, 松原採集・保管。

現在の東京都の多摩川水系からは、以上のように、3 種の生息が確認された。

このうち、オナガミズスマシは山地溪流に比較



図1-3. オナガミズスマシ類. 1, ツマキレオナガミズスマシ; 2, コオナガミズスマシ; 3, オナガミズスマシ.



図4. オナガミズスマシ類がみられた河川環境 (奥が多摩川本川)。

的普通の種で、守屋（1997）の既記録に加えて、データは示されていないものの中根（1987）が「東京氷川」産の標本を元に作図しているほか、今回、秋川上流部の別の支川からも確認されており、多摩川中流域から山地にかけて広い範囲で生息する可能性がある。

しかし、ツマキレオナガミズスマシおよびコオナガミズスマシは、河川中流域が主たる生息場所なので、生活廃水の流入、護岸整備等、人為的な影響を被りやすい種と考えられ、現在の多摩川でもこれらの種が生き残っていたのは特筆に値することであると同時に、今後の生息状況についても注視していく必要があると考えられる。

なお、前述したように、多摩川から得られた複数標本をもとに、神谷（1933）はテラニシオナガミズスマシ *Orectochilus teranishii* を記載している。ツマキレオナガミズスマシに近似の種で、上翅端会合部の形状、雄交尾器の形態などによって区別される。今回、この種と同定できる個体は確認されなかった。テラニシオナガミズスマシの基準標本は、佐藤（1977）によると、戦災により焼失の憂き目にあっているとこのことで標本の再確認はできない状態にあるが、筆者らはテラニシオナガミズスマシがツマキレオナガミズスマシのシノニムである可能性も排除できないと考えている。

引用文献

- 神谷一男, 1933. 日本産オナガミズスマシ属並びに 1 新種, 新亜種の記載. 昆虫, 7(5/6): 240-244.
- 環境省, 2007. 報道発表資料 レッドリストの修正について 添付資料 資料 2 修正版レッドリスト昆虫類 (平成 19 年 10 月 5 日) (<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=8886>).
- 守屋博文, 1997. あきる野市の水生コウチュウ, あきる野市植物・水生昆虫調査報告書 平成 8 年度あきる野市水辺生物研究会による秋川・平井川の調査報告書 48-51 pp.
- 中根猛彦, 1987. 日本の甲虫 (82). 昆虫と自然, 22(13): 27-29.
- NPO 法人 野生生物調査協会・NPO 法人 EnVision 環境保全事務所, 2007. 日本のレッドデータ検索システム. (<http://www.jpnrdb.com/>) 2009. 4. 21 更新.
- 佐藤正孝, 1977. 日本産ミズスマシ科概説 (3), 甲虫ニュース, (39): 1-4.
- Sharp, D., 1884. The water-beetles of Japan. The Transactions of the Entomological Society of London, 1884: 439-464.
- Takizawa, M., 1931. The Gyrinidae of Japan. Insecta Matsumurana, 6(1/2): 13-21.

(〒 350-0825 川越市月吉町 32-17 亀澤 洋)
 (〒 245-0051 横浜市戸塚区名瀬町 765-2 松原 豊)
 (〒 215-0021 川崎市麻生区上麻生 6-1-26 柿生グリーンハイツ 101 雛倉 正人)

【短報】岡山県におけるオオヒメゲンゴロウの記録

オオヒメゲンゴロウ *Rhantus erraticus* Sharp, 1884 (図 1) は、主に湿地や放棄水田など水深の浅い水域を好んで生息しているゲンゴロウ科の水生甲虫である (森・北山, 2002). 本種は、岡山県内からは県北の池 1 カ所からのみ確認されていたが (山地, 1990), 近年はその池でも確認されていないようで、「岡山県版レッドデータブック 2009 動物編」では準絶滅危惧にランクされている (岡山県生活環境部自然環境課編, 2010). 筆者は、岡山県内における本種の新産地を確認したので、現地状況と共に報告する。

1♂, 1♀, 岡山県真庭市蒜山吉田, 3. VI. 2011, 筆者採集, 津黒いきものふれあいの里・倉敷市立自然史博物館保管.

1 幼虫, 岡山県真庭市蒜山吉田, 5. VI. 2011, 筆者撮影 (図 2).



図 1. 今回確認されたオオヒメゲンゴロウ.



図 2. 生息地で確認されたオオヒメゲンゴロウの幼虫.

本種は、水田跡のゆるやかな流れのある湿地から得られた。1 時間半程度の掬い採り調査で、採集した個体の他に 20 個体程度の成虫が確認された。また、同湿地では幼虫も確認され (図 2), 1 齢幼虫から 3 齢幼虫まで全てのステージの幼虫が確認されたことから、この湿地が恒常的な本種の生息地となっていることがうかがえる。筆者が行っている近辺での調査では他の生息地は見つかってお